

横浜技術士懇話会

[横浜技術士懇話会\(NEW\) のHP](#)

2026年2月会報 (#503号)



◇2026年2月講演会のお知らせ（第503回）

開催日時：2026年2月13日（金）14時～16時（**5分前に開録**）

開催場所：[かながわ県民活動サポートセンター](#) 7階 705 会議室

演題：既存建築物の改修 ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）事例

講演概要：2050年カーボンニュートラルの実現には、日本のエネルギー消費量の約3割を占める住宅・建築物の省エネ取組みが不可欠。2015年建築物省エネ法の施行以降、昨年4月には省エネ適合が全面義務化され、今年4月には中規模建築物の省エネ基準も引き上げられる。2030年には新築建築物全体で「ZEH・ZEB 水準の省エネ性能の確保を目指す」ことになっている。

今回は非住宅建築物に的を絞り省エネルギー施策の変遷と最新動向、WEB プログラムを用いた省エネ計算、ZEB の考え方と実現方法などを説明。併せて、国内最大規模となる既存庁舎ビルを改修して ZEB 化（2024年4月に ZEB Ready 認証を取得、現在は改修工事中）する基本設計業務に技術コンサルとして携わった事例について、設計概要と苦労話を報告したい。

講 師： 小林仁三 氏

講師略歴：・1949.4 長野市生まれ。・1974.4 横国大化学工学科卒、理研鋼機(合併後 トヨコ理研、現エル ゴテック)に入社、設計部長・技術開発部長、・1996.3 技術士(衛生工学/空調)取得、主に空調設備設計に従事し設計事務所出向多数。・1983.4 ハウステンボス基本計画、1984.4～1995.5 品川インターナショナル実大模型実験。・2002.5～2011.3 退社し技術士事務所開設。日本橋三井タワー現場設計室・性能検証、コレド室町再開発基本設計、ESUM ツールでの CO₂ 排出量計算業務。・2002.10～2019.3 専門学校中央工学校で建築設備講師。・2019.3～住宅・建築 SDGs 推進センター/省エネサポートセンター相談員。

* * * * *

◇2026年1月講演会の報告(第502回)

開催日時：2026年1月9日（金）14：00～16：20

開催場所：かながわ県民活動サポートセンター 7階 705 会議室

演題：温暖化ガス、排出抑制だけでは遅い！ 地球大気からの CO₂ 削減を！

講演概要： 日本全国の多地点で 41℃超え、世界でも大火災・大ハリケーン等で災害多発。 温暖化ガス排出は先進国の半分では 3割ほど減らしているが、世界全体では増えていて、温暖化ガス全種では約 550ppm。 野菜類の育ちは通常の気温で 450ppm までは育ちが良いと聞いたが、これでは明らかに異常。 排出量抑制だけでは、木や海の自然界吸収では追いつかず、CCS を見たら石油枯渇田への封じ込めが主であったが、長い歴史の掘り出し量から計算すると地球大気中の 1/5000 にしかならず。 海・海藻への閉じ込めを働き掛けたい。 更には、ノーベル賞となった CO₂ 分離膜の研究では大きな膜を作る技術を開発しているそうな。 私としてはもっと早く実績積み上げをということで、述べさせて貢います。

講 師： 高橋淳 氏

講師略歴： 1946.8：岐阜県本巣郡（旧）で出生。 1965.4：横国大金属工学科 入学で横浜へ。 1969.4：日本発条(株)・開発でテーパー板バネ圧延機など、精密(事)・開発で OA 機器駆動部など。 1992.2(有)ハイメック設立で冷蔵庫昇降棚など、香港にも創紅有限公司設立し・広東省で液晶 TV 台など、2014：両社とも清算し無職。

レジュメ： [2026 年1月講演会のお知らせ（第 502 回）- 横浜技術士懇話会\(NEW\)](#)

をクリックしてください。 PDF 入手は「ダウンロード」をクリックすればよく、ご自身の PC に保存可能です。

◇第 502 回講演会の参加/不参加通知一覧

2025/12/26 に案内、2026 年 1 月 2 日にリマインドで案内。

講演会	懇親会	No	参加通知	返信	No	不参加通知	返信
講師	○	1	高橋 様	12/26	1	武藤 様	12/26
○	○	2	鈴木	12/26	2	岡田 様	12/26
X	X		齋藤 様	12/27	3	丹羽 様	12/26
○	○	3	竹村 様	12/27	4	山川 様	12/26
○	X	4	佐藤 様	12/28	5	堀内 様	12/26
○	○	5	小林 様	12/29	6	金子 様	12/26
○	○	6	西田 様	1/2	7	末永 様	12/28
○	○	7	矢田 様	1/3	8	小波 様	1/2
○	○	8	永井 様	1/3	9	松野 様	1/2
○	○	9	山本 様	1/8	10	塚原 様	1/2
○	○	10	安藤 様	1/9	11	栗山 様	1/2
					12	Robo+ism 様	1/3
					13	Formula Project 様	1/5
					14	樺田 様	1/6
					15	金盛 様	1/6
					16	廣田 様	1/7
					17	齋藤 様	1/8



◇研修会の今後予定

○2026年3月13日（金）（第504回）7階708会議室 14時開始

演題：①横浜国立大学フォーミュラプロジェクト最新活動報告

14時10分～15時25分

②Robo+ism 最新活動報告

15時30分～16時45分

講師：①鈴木瑛介・阿部結衣 氏

②飯島悠太朗・荒井陸・岩田航典 氏

○2026年4月10日（金）（第505回）7階705会議室

演題：「一学究の回想」

講師：嘉納秀明 氏

◇編集後記

2026年1月度例会では金属工学科同級生高橋さんに講演して頂いたが、同級生数人に聴講しないかと誘った一人に垂水さんがいる。でも自分は技術系の組織では働いていないので参加を遠慮させて欲しいとの返事が来た。その代わりなのか良書を推薦して我が家にレターパックで送ってきてくれた。「書名」、「サメテガル説明」、「おわりに」の一部を以下に紹介したい。

樋口裕一『70 すぎたら「サメテガル」「老害」にならない魔法の言葉』小学館 2025 ; 190p

「サメテガル」はフランス語（Ça m'est égal）のカタカナ読み、[どっちでもいい]の意味で、いずれも白黒をはっきりさせて一つを選択することを拒否したうえで、選択できなかつたり、選択が無意味であることを示すと著者は言う。「おわりに」で読者への訴えをこうしてまとめている。【これまで日本は成長を目指してきた。高度成長やバブルを体験し、「成長するのがいいことだ」という価値観の中で生きてきた。 そうした考え方を支えたのが、白黒をつけて論理的、効率的に行動し、将来のために投資する思想であった。 だが、それは人間を抑圧する価値観でもあった。多くの人が競争社会の中で心を痛み、ストレスに苦しみ、社会から脱落した。 現在の年配者の多くは、そのような成長の中で壮年期を送り、そうした社会に慣れ、生き抜いてきた人たちだった。 …時代も変化した。 …多様性の時代、様々な価値観が認められ、一律の規定が意味を持たなくなってきた。 …いまでは現役世代の人も「サメテガル」と口にして、従来の価値観から距離を置き、「どっちでもいい」「どれでもいい」と考えることは、しなやかな生き方ではないのか。 …何もかも「サメテガル」と呟いていたのでは、産業が成り立たない。社会には大きな規律が、努力が、ある程度の監視も必要だろう。】

(文責 鈴木弥栄男)

発行：横浜技術士懇話会 YPEC(Yokohama Professional Engineers' Club)

HP管理者：武藤功二 氏

発行責任者：鈴木弥栄男